

議事録

会議の名称	平成29年度第1回加東市総合教育会議
開催日時	平成29年12月6日(水) 午後1時30分～午後3時30分
開催場所	社公民館 2階 研修室
<p>議長の氏名 (市長 安田正義)</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p><出席委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員長 大島 巧 男 ・教育委員長職務代行者 藤本 洋 二 ・教育委員 神崎 芳 美 ・教育委員 田中 寿 一 ・教育長 藤本 謙 造 <p><欠席委員></p> <p>なし</p>	
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副市長 吉田秋広 <p><協働部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働部長 時本敏行 ・企画協働課長 長谷川 茂 ・企画協働課副課長 下岡正裕 ・企画協働課主幹 小林寿泰 ・企画協働課主事 藤崎純平 <p><教育委員会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育部長 西角啓吾 ・参事兼学校教育課長 藤原路寛 ・教育総務課長 大橋博英 ・教育総務課副課長 柴崎俊之 ・教育総務課副課長 片嶋美紀 ・人権教育課長 大西祥隆 ・生涯学習課長 芹生和也 ・学校給食センター所長 簗田順子 ・中央図書館長 大橋正明 ・発達サポートセンター所長 山本京子 ・発達サポートセンター主幹 篠田玲子 <p><福祉部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉部長 丸山芳泰 ・社会福祉課長 陰山芳輝 	
<p>1 議 題</p> <p>(1) 加東市教育大綱における施策の取組状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫校整備状況 ・インクルーシブ教育 <p>(2) 子どもの貧困対策について</p> <p>(3) 新教育委員会制度について</p> <p>2 会 議 資 料</p> <p>(1)平成29年度加東市総合教育会議資料</p> <p>3 会議の経過</p> <p>⇒別紙「平成29年度第1回加東市総合教育会議・会議の経過」のとおり</p>	

(別紙) 平成29年度第1回加東市総合教育会議・会議の経過

発言者	会議の経過 / 発言内容
委員	<p>1 開会 2 市長あいさつ 3 協議</p> <p>(1) 加東市教育大綱における施策の取組状況について ・小中一貫校整備状況</p> <p>教育総務課 説明</p> <p>一応基本設計素案は、先般の11月15日に開校準備委員会の場で御説明していただきましたのもあって、大変分かりやすいお話でありました。ただ、11月15日に基本設計の素案の説明をしたところでもありますので、これからいろいろ検討いただくわけですが、開校準備委員会の委員の意見を徐々にこれから聞いていく必要があるのではないかというふうに思っております。できれば、開校準備委員会としての意見を取り入れて、実施設計のほうへ持って行ってほしいです。</p> <p>もともと気になっていた部分もあるのですが、9年間の一貫した教育ということで、いい方向になるのではないかなというふうに期待はしているのですが、ただ問題等がその途中で発生したときは9年間というのは一つの学校の中での出来事になってしまいますから、それらに対する早期の対応体制のようなものをこれから考えていく必要があるのではないかなというふうに思っております。とりもなおさず今は基本設計の素案の段階ですから、これからいろんな方の意見を聞いて設計をうまくやっていっていただきたいなというふうに思っています。</p>
議長 (市長)	<p>先ほど委員さんの方からは開校準備委員会の意見を十分に聞いてくださいという話が出ました。そこで、これから、基本設計から実施設計にいくのですが、やはり基本設計というのは非常に大事な部分だというふうに思っております。そういう意味では、このところはしっかりと取り決めをしていかなければならない。実施設計になりますと、枠組みが決まって、それを実現化するための細部のところを決めますので、やっぱり基本設計を、この段階でしっかりしたいと思っています。</p> <p>そういう中で、いろんな意見が実は私のほうにも聞こえてきたりしております。例えば、屋上にプールを作るというのは、どうなのかという、そんなことも聞こえてきたりしております。一番大事なものは、子供たちの育みが十分にできる、そういう施設でなければならないというふうに思っております。</p>
委員	<p>私も東条地域の開校準備委員会に参加させていただきました。皆さん素案を聞かれたときに、私と同じ気持ちだと思うのですが、こんな素敵な学校ができるのだという、そんな気持ちで驚きというか、楽しみというか、うれしさというか、そういうのが保護者やそこにいらした方、皆さんそう思われたと思います。私と同じような気持ちだったと思います。小中一貫校ができるのは、確実なので、私はそこからちょっと踏み込んだ、話をしたいなと思って考えてきたのですが、学校は9年間になってしまいます。9学年とも皆さん入ったときが1年生ということになります。普通でした</p>

	<p>ら、2年生、3年生は慣れているのですが、全く新しい学校に皆さん入るので、9学年とも1年生ということになります。そうすると、もう取り返しがつかないちょっとここが嫌になったなどいっても、また中学からやり直せばいいじゃないかという、そういうことができないので、私は一番どういう学校にしたいですかということを尋ねられたら、毎日学校に行きたくなるような学校にしてほしいと思います。それが一番で、そのためにはどうすればいいかということになるのですが、子供たちは不安で今度小中一貫校になったときに学校に通うようになるのですが、先生方がいかにシミュレーションして、勉強して、先生方も初めてのことなのですけれども、もうあたかも慣れたかのような形で、子供たちを受け入れるぐらいに先生が技術力を高めて、連携をとってほしいなというのが、一番の願いです。いい学校ができたなと周りの人に思ってもらって、子供たちが毎日楽しんで行ってくれるような学校にしてほしいなと思います。</p>
委員	<p>私も皆さんが言われたのと同じように、いい学校にしたいという思いを本当に大切にしておきたいなと思っています。今いい学校にするのではなくて、今ももちろんいい学校にするのですが、20年先、30年先にもやっぱりいい学校になったと言える学校にしておかないと私はいけないかなと思っています。人口減少社会が、それから少子・高齢化社会が必ずやって参ります。そのときに今世論で言われているダイバーシティとか多様性とか言われていますが、そういったものを確保しようと思ったら、ある一定規模の人数も必要ですし、さまざまな人との関わりが必要ですので、人数の確保もそうですけど、さまざまな人たちが学校に行きやすい、寄りやすい、やっぱり新しいタイプの学校を作っていく必要があるのかなと思います。</p> <p>そういう意味では、この素案の中に出てくる地域開放の出入り口がきちんとあって、地域の人が寄りやすい、もちろん根底は基本的な学力の確保であることは、もちろんなんですけど、これからの共生社会の中で生きていく子供を育てようと思えば、新しいタイプの学校を目指してほしいなということを改めて感じています。みんなが楽しみに待てる小中一貫校であつたらいいなと思っています。</p>
議長 (市長)	<p>思いは誰もがおそらく一緒だと思うのですが、ただそれを今度どのようにして実現させていくのか。実はその部分が一番の課題だと思います。それぞれおっしゃっていただいたところに到達させるための手段といたしますか、こんなふうにすればいいというような御意見があれば是非お伺いしたいと思います。いかがでしょうか。</p>
教育委員 長	<p>先ほども説明をしていたと思うのですが、大体教師側のことと子供たちのことと、それから地域の方々のことがあろうかと思うのですが、まず教師のほうにつきましては、資料の11ページのほうにも書かせていただいています。中学校の先生が小学校の子供たちに関わる、あるいはその逆に小学校の先生が中学校の子供たちに関わるという、そういった出前授業をしていくことによって、小・中の発達段階等々あるいは子供たちの思考というものが分かってくるのではないかなということを思っています。今教師という話がありましたけど、小学校の先生の良さと中学校の先生の良さというのは、やっぱりきちんとあろうと思っています。その良さが融合された学校が小中一貫校の教職員であらうというふうに思っ</p>

	<p>いますので、そういったお互いの良さをうまく取り入れていくというためにも、小・中学校の出前授業等々の交流が必要だと思います。それから各教科のカリキュラムというのももちろんあって、今もそうですけども、小学校の教科というのは小学校1年生から小学校6年生のカリキュラムがあって、次に中学校1年生から中学校3年生というふうになるわけですけども、それを連続して9年間のカリキュラムを小中一貫校に勤める先生、加東市の先生方全て、そのことを理解して、作り上げていくということは、子供たちの成長にとって大きなプラスになるなと思っています。それを今やろうとしています。</p> <p>これを今まで小学校の先生は小学校同士の交流が多く、中学校の先生は中学校同士の交流が多かったのですが、今は小・中学校の先生がともにそのカリキュラムのことについて研修を進めています。ちなみに、今年東条中学校のほうで道徳の研究発表があって、行っていただいたと思いますが、あれも小・中学校の9年間の道徳という教科になるカリキュラムをどうしていくかということの研究テーマでもって、東条中学校で行いました。そこに小学生も参加をして、小学校の先生が小学校の道徳の授業も提案して、また中学校の先生は中学校の授業を提案していくというか、そういったことが今回できたと思います。それが今の一つの小・中学校の先生方の良さをより良く発揮していけるような準備をしているというふうに御理解をいただいたら有難いと思います。</p> <p>それから、地域の方々のごことですが、これは11ページの最後のほうに開校ができた平成33年以降には、新たにできる学校をより良くしていくためにどうしていったらいいかというようなこと等の御意見を賜るような、懇話会も大事ではないかというふうに思っています。</p> <p>また、子供たち同士ですけども、今新聞でも少し出ていますが、東条西小学校と東条東小学校の子供たちが学習を通して交流をしているというのは御存じだと思います。そういった同じ学年同士、あるいは異学年もあっていいと思うのですが、学習での交流をやっていくことが子供たちの不安をなくすると同時に、より多くの子供たちと初めて出会う子供たちとの学習の面白さや良さみたいなものを体験していただくことが一番かなというようなことを思ったりしています。</p>
議長 (市長)	<p>じゃあ、それぞれ委員さんで、今の話に対して何かあれば発言を是非お願いしたいと思います。</p>
委員	<p>開校当時の人数やその後の推移は、調査できていますか。</p>
参事兼 学校教育課長 (藤原)	<p>開校当時は小・中学校合わせて約500名で、しばらくはその平行線です。ただ、その後はちょっと調査していないのですが、しばらくはいると思っております。</p>
教育委員 長	<p>開校当時は子供たちがしっかりいて、いい教育がスタートできたというものの、何年かすると今度は子供たちの人数が減っちゃって、新1年生がほとんどいなくなったとか、例えば東条西が極端に減りましたよね。ああいうふうなことになるのではないかなという危惧は持っています。しばらくの間は大丈夫でしょうか。</p>

教育長 (藤本)	<p>大丈夫だというふうに思っています。ただ、むしろ学級定数の計画がございまして、今1年生のみが35名で2年生以上が45名というのが基本になっておりますが、今盛んに言われているのは、例えば学級の定数を下げる取り組み、例えば30人にするというようなことになるとかということも一方ではあろうかと思えます。同時に、南山のほうも開発をされまして、今後どこでどう開発されるかわかりませんが、突然にぼっと増えてくることも、減ることも想定をしていかなければいけないです。</p>
教育委員 長	<p>道徳が必須になって、その評価がいよいよ本物になってくるということ、子供たちの通知表の道徳の点数がどういう形になるのか。それから、英語が必須になって参ります。その評価がどういうふうになるのかということも考えておかなければいけない。小中一貫校だけじゃありません。加東の学校全部考えないかんことなのだけれども、小中一貫校は特に新しくスタートをする学校ですので、その辺のところは十分に準備をしていただくことと教職員の皆様方がその辺のことをしっかりとお互い共通理解なり学習をしっかりしていただいた上で取り組んでいただく必要があると思えますね。それはこれからの準備になろうと思えます。</p>
議 長 (市長)	<p>ハード整備というものの中で、最初に申し上げた、例えばプールが屋上にあるということやこの前の区長会で質問がありましたトラックの話についての考え方といいますか、その辺、設計会社は、プールを屋上にするということについて、どういうふうな捉え方をしているのか、あるいは事務局として、その辺はどうなのか。何かありましたら、是非発言をしてください。</p>
教育総務課副 課 長 (柴崎)	<p>設計によりますプールの概要についてですが、プールを校舎の屋上に置くことは、生徒の動線からも教育的効果があるのではないかなという業者の提案もありました。その提案の中で採用されたものであると私どもは認識しております。</p> <p>建築上のものに関しましては、当然前例といたしまして、他市町のほうでも屋上にプールを設置するのはやっておられます。あと建築基準法上、当然耐震設計等、当然施設としてクリアをしなければならない条件は屋上にプールがあっても同じであります。というので、安全上も確保できるということで設計会社のほうから聞いております。</p> <p>トラックについては、一応今の計画案としましては、内周といたしまして一番内側の周回部分としましての設定が180メートルというようになっております。あと、体育を行うに当たりまして中学生の200メートルの設定も可能であります。</p>
議 長 (市長)	<p>プールのことで今説明があったのですが、動線を考えた上での配置といいますか、話でございまして、運動場についても180メートルあるいは200メートルということで問題はないというような話でございまして。なかなかこういった地域で屋上にプールというのは、ある意味で安心という考え方もある一方で、そんなことをしないといかんのかというような思いの方もやっぱり現実にはいらっしゃると思えます。そこのところはしっかりと説明していきたいという思いであります。</p>
委員	<p>11月15日に開校準備委員会があって、その委員さん方から出た意見は、先ほど資料のほうに大体のことは上がっていったのですが、それ以外</p>

	<p>にプールのことはちょっと意見がありまして、大きさ、特に小プールがちょっと小さいのではないかなという意見が出ています。それから、体育館の外部の方の利用も考えていくというような方針でお話があったのですが、そのときの玄関がいわゆる外側と接触しておりますから、セキュリティー対策のようなことをどうやっていくのだというような御質問をいただきました。それから、低学年の子の休み時間の遊び場の確保をしてほしい。これは教育長のほうから、その辺を考えておるといふようなことの話もあったのですが、そういう意見が出ました。</p> <p>それと、今の大橋課長の説明の中で現中学校との動線の中で今の絵では歩道橋のような絵になつてくるのですが、先ほどの説明では横断歩道みたいな説明の部分もあったようにちょっと感じたのですが、この辺はまだこれからの検討材料だと思うのですが、やはり安全性の確保のようなことを保護者の方それから委員さん方は気になさっているのではないかなと思います。他にも若干細かい部分はあったのですが、大雑把に申し上げれば、ここの資料に載っている内容と今私が申し上げた内容がこの間の開校準備委員会で出た意見です。ただ、説明をして、すぐ出た意見ですから、これから色々内容を検討していただくと思っております。</p>
委員	<p>プールの話が出たついでなのですが、私もその小プールの大きさについては、現場の指導者との話を十分最終的には詰めていただきたいなというように思っています。というのは、加東市の子供たちの泳力というのは、この周りの市郡町と比べても本当に群を抜いて高いです。これからもやっぱり加東市の子供たちの泳力を保っていこうと思えば、それなりの指導のできる施設がやっぱり必要だと思います。そういう意味で、プールの大きさ、それからプールの深さ、特に小・中学生で使いますので、十分検討をしていただいて、いいプールになればいいなと思っています。</p> <p>それから、屋上にプールがあることにつきましては、一応現場で指導していた者としては、とても有難いなと思っています。というのは、地域の人もたくさん学校に来られる学校になります。ということは誰もが入りやすいということで、やっぱり管理する上で屋上にあるというのは、安全面も管理面も考えると良いです。昔でしたら休み明けで学校へ来たらプールの中に椅子が捨ててあったとか、そういう事件性のあるもの等も随分防ぐことができるのかなというように思っています。そんなことを含めて、屋上にある良さみたいなものも考えながら、これからの最終的な設計に活かしていただいたら嬉しいなと思っています。</p>
教育長 (藤本)	<p>それと、田中委員のほうから20年後、30年後の学校というような話をごぞいしましたけれども、今できるまでの話を中心にしていたと思います。できた直後とそれから後はやっぱり見直しをしながら、その学校の、より良い文化を作っていくというのは、その後のまた課題であろうということは十分私も認識していますが、期待のある、そして20年後、30年後にこんな学校であつたらいいなというふうなことを具現化できるよう努力をして参りたいなと思っています。</p>
議 長 (市長)	<p>先ほど出た話ですけど、加東市の子供たちの泳力が高いことについては、私は余りそういう認識がなかったです。</p>

委員	<p>加東市の子供たちの泳力につきましては、加東市の担当者のほうで小学校入学時から計画的にカリキュラムを組んで、できるだけ泳力を伸ばそうと個人一人ひとりのカードも持たせながら指導しているところでございます。他の市郡町に行きますと、なかなか指導体制が整わなかったり安全上の問題があったり、こういうさまざまな状況の中からプールに1年間に数回しか入らない子供たちがたくさんいるという現状で、他市町から加東市へ転校してきた子供たちの泳力が、低いと毎年指導していて感じるようです。それから、やっぱり加東市を卒業していった子供たちから、高校や大学へ行って泳いだときに、すごいなという、褒めてもらえるというような話も、随分子供たちから聞かせてもらっているのです、これは是非維持していけたら有難いなと思います。学習指導要領では、もう本当に自由形と平泳ぎ、それから背泳ぎの2種目または3種目程度の指導にとどまっているのですが、加東市の子供たちというのは4種目求める子供たちがたくさんいるというのが現状でございます。</p>
議長 (市長)	<p>あとの項目もございますので、一旦小中一貫校のことについては、これで終わりたいと思います。</p> <p style="text-align: center;">・インクルーシブ教育</p> <p>発達サポートセンターはぴあ説明</p>
議長 (市長)	<p>今発達サポートセンターとしてオープンして8ヶ月経過、そして「はぴあ」という形になって約半年という経過の中で取り組んできた状況、そしてこれから取り組むことということで説明をいただきました。</p> <p>委員さんのほうから今の説明について御意見等ございましたら、是非お願いをしたいと思います。</p>
委員	<p>ワンストップ型のサポートセンターができて本当に良かったなと思っています。特に未就園の子供たち、それから義務教育が終わった人たちの相談の場所ができたというのは、とてもいいことだなと思っています。学校現場に勤めていて、どこへ行ったらいいかわからないというのが相談を受けるときによく出てくる悩み相談でした。そういう意味で、1つ教えてほしいのですが、中学を卒業して高校、大学、成人という数が34、3、34件と相談者の年齢区分が書いてあるのですが、これはこの家族なり親なりからの相談かなと思っているのですが、この中に本人からの相談というのはございますか。</p>
発達サ ポート センタ ー主幹 (篠田)	<p>高校生、大学生に関しては親御さんからという形が多いのですが、本人さんも一緒に相談に来られて、自分自身で自分の困ったこととかを相談される方もいらっしゃいます。成人の方に関しては、御本人様からという形が多いです。</p>
委員	<p>ありがとうございます。本当にこれだけの数の相談が、このわずか8ヶ月であったということをお聞きして、もうびっくりしています。もう本当に空いている時間がないほどの数の相談なのだということをお聞きして、改めて気づかされています。本当にいかに皆さんが待っておられるのかと</p>

委員	<p>というようなことがよく分かりますので、大変だとは思いますが、まだ御存じでない方もたくさんいらっしゃるのではないかなと思うので、是非広報していただいて、こういう場所があるということを市民に知らせていただいたら有難いと思います。</p> <p>インクルーシブ教育というのは今よく言われているのですが、うちも昨日ちょっと家族に尋ねたところ、娘は聞いたことある、主人は聞いたことないというところから始まりました。はぴあという施設ができて本当に有難いと思います。支援が必要じゃない子供の親というのは余り分かっていないと思います。</p> <p>ですから、私としては、やはり健康な子のお母さんもこういう施設があるのを知って、そういう子供たちがどういうことをして訓練を受けているかというのを知ってもらって、学校で本当にインクルーシブというように、どんな子供も同じように教育を受けられるようにしていただくのが一番だと思うのですね。そのためには知らないお母さん世代にも、こういうことをしているというのをもっと知ってもらいたいなとは思いました。</p>
発達サポートセンター所長(山本)	<p>本当におっしゃるとおりで、もう今からしなければいけないことで、やはり市民の方にこの発達障害について理解をしていただく。そのことによって保護者の方は自分の子供の発達障害についての早期発見・早期支援につながる。また、そういうふうな例えば療育とかに参加される方は会社の理解がないとやっぱり参加できないとなることから、事業者の方にも理解していただかないといけない。とにかく啓発に取り組みたいと考えています。来年度リーフレットや発達障害についての説明のパンフレットを作成する予定にしていますが、その分については保育所、小学校、中学校、全ての家庭に配布させていただきたいと思っています。</p>
教育委員長	<p>私は退職した後3年間、加古川市の教育相談センターというところに、勤務しました。来る子供の多いこと、多いこと。なぜかというと、担任の先生とか、まだ幼稚園の子供とか来年度就学する子供たちに、ちょっと子供さんが心配やから教育相談センターへ行きなさいという紹介を受けて、たくさん来られて、みんなでいろいろサポートして行くのだけれども、1回の相談とか1回のアドバイスで出来上がりなんていうことはあり得ないですね。そやから、今度は来週の火曜日に来なさいというふうに約束して何度も来られます。一番気になったのは不登校の子供ですよ。気持ちがどうもすさんでいます。そういう子供たちが教育相談センターへ来ることによってすさんだ気持ちがどんどん和らいでいくというのがもう目に見えるのですよね。</p> <p>もちろん相談センターでは相談事だけじゃなくて、その子供たちと卓球をしましたけれども、いろんな運動をしてやるということで気持ちを開いてくるわけですよ。だから、そういうふうにして、あの手この手でどんどん気持ちを開いていくような手法をとっていただけたらなと思いますね。</p>
発達サポートセンター所長	<p>実際に高校生で不登校の子供のお母さんがまず相談に来られました。その後何回か来られた後、本人さんも御一緒に来られて、進路のことで悩まれていたのですが、その辺対応させていただいて、いい方向に向かったというようなことがありました。今言われたように、例えば、他の不登</p>

(山本)	校の子供さんですけど、お習字だったらしたいとか、そういう方がいらっしやるので、全く今のお話かなというふうに取り受けました。その辺また考えていきたいと思います。
委員	これだけの人数の方の相談を、職員の数もそうですし、そういう中でよくやっていただいとるというのが実感でして、毎月、定例の教育委員会でその状況なんかは報告いただきますから、その状況は分かっているのですが、相談やら指導件数が大変多いのは、驚いています。事業の内容も相談、巡回、療育事業、研修、啓発と多岐に渡っておりますし、なかなか大変だなというふうには思っておりますが、利用されとる方は非常に喜んでいと思っております。
議長 (市長)	今の話聞きまして、対応の仕方、A君にはこういう対応で効果があったけれども、同じことをB君にしても、それは効果にならないということだって現実にあると思います。その辺の見極めが非常に難しいだろうなというふうに思っています。その辺も理解はしております。頑張ってください。
	<p style="text-align: center;">(2) 子どもの貧困対策について</p> <p style="text-align: center;">教育総務課説明</p>
議長 (市長)	まず、一つの観点といいますか、いわゆる生活実態とかその学力とか、そういったところがきちんと把握ができておるのかどうなのか。その辺はどうなのでしょう。事務局のほうで答えられるのであれば教えてください。
参事兼 学校教育課長 (藤原)	<p>貧困家庭の子供という点については、どこで線を引くかという問題もやはり出てきます。実際経済的に貧困ということであれば、今就学援助のほうで対応しているところです。ただ、やっぱり経済的に支援が必要な子供につきましては、保護者から依頼が当然出てくることもあります。急に父親が亡くなったとか、そういう場合はすぐに学校として体制を整ってケース会議を行って、教員が支援の体制に入っていくところです。</p> <p>さらには、先ほども言うてましたように自主学習、加東スタディライフや放課後学習等を市教委のほうでやっているのですが、そのように授業時間外でも自分から進んで学習できる環境は整えているところです。</p>
教育委員長	加東市はこの貧困対策というのか、恵まれない子供たちの支援を本当によくできていると感心しております。毎年5月の終わりから6月の初め、加東市の学校全部訪問させていただいて、その学校の教頭のほうから、うちの学校は給食費が滞っている子供が何名とか、あるいは母子家庭の子供が何名とかというふうにご様子をお知らせいただくのだけれども、これが原因で学校へ来られないとか授業に悩んでいるとか、ということをお聞きしていません。これだけ加東がその辺について非常に手厚く、あるいは細かいところまで配慮をいただいていると感心しております。それから、先ほど藤原参事がお話しされましたけれども、夏休みに特別スタディライフというチャンスをつくっていただいて、ありがとうございます。学校の授業だけではなくて、夏休みのスタディライフは大学生の

委員	<p>お兄ちゃんたちに教えてもらえるということで、非常に生き生きとしていますよね。こういうチャンスがたくさん作っていただいているのは、加東市だけじゃないかと私は勝手に思っています。素晴らしい取組をしていただいていることに、感謝したいと思います。</p> <p>貧困につきましては、先ほど参事のほうからありましたが、何をもって貧困と定義をするかは、とても難しいです。各家庭での経済状況との向き合い方というのは家庭によって違いますので、収入が少なくても、それなりに向かい合って一生懸命生活されている家庭の子供の育ちと、ある程度の収入があっても、きちんと向き合えない家庭での子供の育ちというのは随分違うのではないかなというふうなことを思っています。</p> <p>学校のほうで議題に上がっているのは、集金の滞納状況であったり、子供の食生活であったり、着ている服装から判断をしながら保護者と相談をするのではないかなと思っているのですが、他にそういった貧困で本当に一生懸命頑張っておられる家庭で漏れているような家庭はないのかどうかというようなことも当然気になったりはしているのですが、そういったことも何か拾い上げる手段があったらいいなと思っています。</p> <p>それからもう一つ、委員長のほうからありましたが、特に休みの日、長期休業中等に家庭の状況で居場所がない子供たちを救える場としての加東スタディライフ等いろんな取組が充実していくことはとってもいいことだなと思います。これはなかなか学校だけではできないので、いろんな部署との連携によって、さらに広がっていったらいいのかなというように思っています。先ほどの発達サポートセンターみたいに、そういった居場所のない子供たちが取り組めるような場所を、学校だけではなくて、もっと広がっていったらいいなというように思っています。よろしくお願いします。</p>
委員	<p>貧困というのは知られたくないものだと思います。でも、どうしても忙しいとお母さんも仕事に出なくてはいけないし、仕事に出ると子供と接する時間も少なくなります。接する時間が少なくなると、お母さんが忙しいからPTAの授業参観とかも余り行かなくなって、他に親しいお母さんもいなくなって孤立してしまうようなところもあるので、やはり学校の先生が一番よく分かるかなと思うので、お母さんが一人孤立しているようなお母さんをちょっと探してあげるとか気がついてあげられたらいいなと思います。</p>
福祉部長 (丸山)	<p>先ほど貧困家庭の方が情報の中から漏れていないかということでございますけども、私ども事務のほうでは、地区の区長さん、また地域の皆さん、それから民生委員、それから学校というような情報網から、いろんな問題のあるケースは届いておりまして、その分に関しては、問題のある家庭としては漏れている部分は少ないのではないかなというふうに考えております。ただし、貧困率や貧困家庭はどのぐらいあるのかということですが、そのあたりが全く今掴めていない状態でございますので、来年その実態を調べられたらなというふうに今計画しているところでございます。実態調査が出来たときには、またその報告をさせていただきたいなと思っております。</p>
委員	<p>先ほど説明があった定例訪問の認定者数の推移を見る限りは、そんなに大きくは変わっているようにはなっていないのですが、学校等へ行か</p>

<p>議長 (市長)</p>	<p>せてもらって資料を拝見する中では、やっぱり準要保護なんかは学校によって若干は違うかも分かりませんが、増えてきていると思っております。この法律なかなか難しいので、どこまでしたらいいのかというのはよく分からんのですが、特に義務教育の機会均等というのは必要なことだろうと思います。</p> <p>先ほど説明がありましたけれども、ついこの間の教育委員会でも学用品の就学予定者に対する援助で申請をしてもらおうというような話し合いをして、そういう方向で決まるとは思いますが、そういう面では加東市としてはよくできているというふうには感じております。</p> <p>貧困の連鎖というようなことがあるのですが、せっかく能力がある子供がいるのに、親の資力がないから、学習ができないという状況だけは何とかないように支援ができればなという、そんな思いはしております。</p>
<p>教育委員長</p>	<p>(3) 新教育委員会制度について</p> <p>教育総務課説明</p> <p>私ども教育委員は、あっちこっちの研修会で新制度はしっかり勉強しております。何度も何度も研修を受けました。ちょっと情報ですけども、兵庫県下で新教育長が誕生していない市町が現在6つあります。この12月に猪名川町とその辺の町のほうが2つ加わり新しい新教育長が生まれます。ということは、新制度になるということです。来年、年が明けますと、あと4市町です。加東市も旧のまま、今教育委員長という立場をさせていただいているのですけれども、国が指定しているリミットが来年の10月になります。一番最後まで残るのが姫路市とたつの市です。私どもの加東市は多分来年の4月か5月に新しい制度になるだろうというふうに予想しております。</p> <p>この新制度を何で導入することになったのか、皆さん御存じでしょうか。大津のいじめ自殺事件がありましたよね。あれで市長が一生懸命答弁していました。女性の市長さんが一生懸命ね。責任者、誰なんよと。教育の問題、学校の問題だから教育長または教育委員長と違うのかというふうなことが話題になりまして、責任体制をもっとしっかりしなあかんと違うかということで、この新制度が考えられたわけです。そして、その後、順に新制度が生まれまして、教育長が全ての責任を持つということになるわけですけども、それで教育委員の研修が非常に大事になってくるということで、地方圏でも新人教育委員の研修も含め、全県教育長の研修会を、今までは教育長さんだけの研修だったのだけれども、教育委員さんも勉強してもらわないかというふうな発想が生まれまして、今年8月、教育委員さんを対象に研修会をさせていただきました。</p> <p>その参加率を見ますと教育委員さんが非常に多く出席いただいて、これは有意義やったなということで喜んでいただきましたけれども、我々結局は新教育委員会制度であろうが、教育委員に任命された以上は研修をしっかりして、色々学校とか教育委員会にアドバイスをしたり、こうしたらどうかという提言をしたり、色んなことで研修する必要があると思います。おもしろい話をしますと、教育委員というのはレイマンということで、素人です。素人のほうがいいわけです。だから、田中委員とか校長OBですよ。私も実は教育関係にいましたし、そういう者になるより</p>

委員	<p>も、一般のレイマンの人になっていただいたら、外から見た今の学校教育とか社会教育とかその辺について、色々アドバイスをいただけたと思います。</p> <p>結局は色んな意見を言っていただいて、合議制で教育委員会というものが成り立っていくのだというふうなことで、我々も今は教育委員という立場なのだけれども、しっかりと今後とも勉強する必要があるなという思いをいたしました。田中委員さん、この間、県の新任研修を出られて何かありましたか。</p> <p>私も昨年5月から教育委員をさせていただいているのですが、先日新任教育委員の研修会というのを神戸で受けて参りました。まさかこの職に就くまでに教育委員になって研修を受けるなんてことを本当に心にも思っていなかったのですが、改めて違う立場で違う目からもっと広い視点で高い視点で教育というものを考えないといけないなと改めて思っているところです。今まで本当に子供と近い距離で教育というものを見てきた部分が、もう少し離れた地点からできるだけ見るようにしなければいけないということを改めて感じています。微力ですが、頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>4 その他</p>
委員	<p>特別変わったことではないのですが、学校訪問の状況なんかをちょっと発表させていただきたいなと思います。ちょくちょく学校へ行かせていただく機会があるのですけれども、全体的なことでも申し上げますと、今の加東の小学校、幼稚園もなんですけれども、とても集中して落ちついて授業に取り組んでおるなという印象を受けております。</p> <p>それと、学校内も明るいですし、前向きな子供が育っておるという感じなんです。子供たちも出会ったら挨拶をきちんとしますし、とても気持ちのいい状況です。先生方も授業は丁寧になさっていますし、一人ひとりの子にもできるだけ目を配っているのかなというような感じで見えております。全体的にはそんな感じなのですが、ただ中にはちょっとややおとなし過ぎるのと違うのかなというようなクラス、それから先生がどちらかという自分のペースで授業を進めていってしまうというようなケースもありましたので、もう少し子供たちに考える余裕のようなものを持たせてやったほうが子供たちにとっては分かりやすいのかなというような部分がちょっと感じたところがあります。これが学校訪問等を行かせてもらっての感想です。</p> <p>子供たちには学力を養ってほしいのはもちろんなのですが、明るくて元気でいて楽しんでくれたら、一番それが基になるのかなというふうにいつも思っております。したがって、さっきの報告のとおり、非常にそういう面では今はいい状況であるかなと思っております。先ほど委員長からも教育人として、もっと勉強しなあかと、こういうような話もあったのですが、私自身は教育に所属して勉強させてもらっていますけれども、学校訪問へ行って感じたこと、それからそんなに度々はないのですが、保護者からたまに相談があったりすることもありますので、必要なことに関しては教育長や学校等に話をお伝えして検討いただくことをごぞいました。そういう形で今取り組ませていただいています。</p> <p>先ほど新教育長制度ということの話もありましたですけれども、やはり</p>

委員	<p>教育委員会の中では私は従前からそういうふうに思っていたのですけれども、事務局サイドは補足説明のようなことはしていただかんと学校のことまで分かりませんので、それでいいと思うのですけれども、やはり今後は教育長から報告あるいは提案を受けて、教育委員の間で十分な協議を進めていく必要があるのではないかとこのように思います。</p> <p>さまざまな加東市の取組をしていただいているのですが、他の市町の教育委員さんとの話であったり、学校関係者との話であったりする中で、随分加東市が先進的に進んでいる部分というのはたくさん見えてきます。こういう中におったら分からなくても、外での関わりの中で見えてくることって、たくさんあるのではないかなと思っています。小中一貫教育への取組も一つなのですが、ICT教育の機器の充実ぶりや整備につきましても、本当に県下でトップクラスの整備をしていただいているというのは、とても有難いなと思っています。先ほどの発達サポートセンターはぴあの設置であったり、今の喫緊の教育課題に対して本当に先進的にいち早く取組を始めている加東市というのは、本当に誇らしいなというふうに今年一年思わせていただきました。</p> <p>もう随分整備が進んできていて、次の課題へそろそろ移らないといけないということも見えてきているのではないかなと思っています。先ほど委員さんのほうが授業を見てという話もありましたが、これからは質を高めていくということがやっぱり現場に課せられた大きな課題かなと思っています。これから加東市の教育の質をどう高めていくかということを考えていくことが、これから大切かなと思っています。そういう意味で、また学校訪問ができたらと思っていますので、よろしくお願いします。</p>
委員	<p>加東市の教育の特色を、ちょっと私なりに考えてきたのですが、いいところはきちんと歴史がありまして、それをまたこれを郷土学習にしてほしいと思います。先生方の教える力もあると思います。学校の雰囲気もとてもいいと思います。1つだけ、ちょっとどこが悪いのかなと考えたのですが、何か危機感が子供たちに余り無いようで、恵まれ過ぎているかなというところがあります。この生活でもういいかなというところがあるので、私としては子供たちが意欲的にこれから新しいところに行っても自分の力で生きていけるような強い力を身につけるためには、もう少し子供たちも危機感を持ってもらって意欲的に勉強してほしいなと思います。それがちょっと気になる場所ですね。</p> <p>教育委員としてですが、今でも何かあればちゃんと伝えてくれますし、皆さん集まって話すこともあるので、私は今度変わったからといって特別変化することはあまりないと思います。私がすべきことといえば、やはりいろんな本を読んだり新聞を読んだり、パソコンなどで情報を取り入れて、今何が起きているのかということを考えて、加東では自分がどうすべきなのかというのを考えていくのが私の役目かなと思っています。</p>
教育長 (藤本)	<p>学校の色々な授業にたくさん行っていただいて、目の前にいる子供たちだとか学校の施設設備等々も含めて、先生の様子等を見させていただいて、毎回その報告をいただいています。ありがとうございます。そういった中から何が課題なのかということをしつかりと見極めてやっていかないといけないと思います。さらにより良い学校作り、あるいはより良い社会教育も含めてのより良い加東市になるように改めて頑張っていかなと</p>

議長 (市長)	<p>う思いをしました。</p> <p>少し違った視点で、危機感がないという話をさせてもらうのですが、これまでずっと言い続けてきたことなのですけど、災害の話で、あちこちで言うてるのですけど、台風が来ると言っとったけど、結局来おへんかったやないかと、この辺はええところやな。実はこんな話があって、そうじゃないですよと、そんなこと思ったら、いつかやられますよという話をずっと言いよるのですけども、実はそういう地域なのかなという、その危機感のない、どうも大人の側もね、もうそういうこと一つに捉えてもそうなのですけれども、本当に危機感のないところなのかなという、そんな思いであります。いろんな面で、またそういうことも是非発信をいただきたいですし、また今お話をいただいた、我々の側も教育について発信をしていかなければならない、そんな思いであります。</p> <p>誰の言葉でしたか、前にもお話をしたかも分かりません。国を滅ぼすのに武器は要らないと、こんな話があって、教育を疎かにすれば、50年たったらその国は滅ぶだろう。実はこんな話を聞いたことがございます。そんなふうにならないように、子供たちの教育について、やっぱり教育委員会や私どもが一緒になって、御協力をいただきながら進んでいきたいと、こんなふうに思っているところでございます。</p> <p>午後3時30分 閉会</p>
------------	--